

特別分科会②【高大社連携キャリア教育】

高大社連携フューチャーセッション成果報告

～実行委員会方式となり何が変わったか～

発表者▶ 2020年度高大社連携フューチャーセッション実行委員

コーディネーター▶ 杉岡 秀紀（福知山公立大学地域経営学部准教授）

コーディネーター▶ 鮫島 輝美（京都光華女子大学健康科学部准教授）

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として、教育現場ではオンライン授業の導入が進められ、企業でもテレワークの導入など転換が求められてきた。この先の見えない時代の中で、今年度の高大社連携フューチャーセッションについては、生徒・学生による「実行委員会形式」を採用し、次代を担っていく高校生・大学生19名に、オンライン（Zoom、LINE）という新たなツールを活用し、未来を見据えた柔軟な発想で自ら思考し、これからの「学ぶ」と「働く」のライフデザイン事業として今年度の「高大社連携フューチャーセッション」を組み立ててもらった。本特別分科会ではこの成果を報告するとともに「実行委員会方式となり何が変わったか」という問いについて実行委員会の学生・生徒とコーディネーター、参加者間で議論を深めた。

概 略

まず、コーディネーターの杉岡秀紀氏から、パネラーおよびコーディネーターの紹介、高大社連携フューチャーセッションの概要紹介、アンケート結果の報告、本特別分科会の進行について説明があった。

次にパネルディスカッションに入り「学生実行委員をやってみて身についた力はどんな力？」「企画から実行までやってみてぶつかった壁とは？」「またそれをどう乗り越えた？」「自分の中の『学び』と『働き』についての考え方はどう変化した？」の順で、2020年度高大社連携フューチャーセッション実行委員4名から発言があり、参加者からの質疑の時間も設けた。

その後、各々の問いに対して、コーディネーターである鮫島輝美氏からコメントがあった。最後に杉岡秀紀氏からまとめがあり、閉会した。

全体討論の内容

参加者からは、チャットの機能を活用して「本事業を通して『学び』『働き』の軸で、未来的な情報や多様性（世代や地域）に触れたことによって感じたことや気付いたこととは？」「『学び』と『働き』はいわば表のステージで、ライフには『暮らす』があると思う。今後は『働く』『学ぶ』『暮らす』をつなげることは、このフォーラムでは探求していかないのか？」「高校生と大学生の協働プロジェクトということで、高校生は大学生と一緒に進めること、大学生は高校生と一緒に進めることで、感じたことや気付いたこととは？」といった質問が寄せられ、それぞれパネラーと

コーディネーターから回答した。

以上の質疑なども鑑み、本年度の高大社連携フューチャーセッションについては、以下の3つの到達点を確認できた。

- ① リアルに会えないもどかしさやコミュニケーションの難しさもあったが、時間や物理的距離の限界を超え、いつでもどこでもつながれるというオンラインならではのメリットが出て、学校種・学年・年齢・出身地域を越えた出会いの場、ネットワークを構築することができた。
- ② 実行委員会内外で「学ぶ」と「働く」についての多様な価値観に触れ、実行委員である学生・生徒たちの発言が日に日に前向きかつ主体的なものに変わっていった。
- ③ 企画から実行までをほぼ全て学生・生徒たちで行うことで、主体性や企画力、実行力、責任感、タイムマネジメントなどのソーシャルスキルを身に付けてもらえた。

到達点と今後の課題

本年度の特別分科会②は、昨年度までと違い、全てオンラインとなった。そもそもフォーラムのみならず「高大社連携フューチャーセッション」事業全てがオンラインであった。しかし、ピンチはチャンスではないが、この工夫（アレンジ）により、これまでの京都府北部地域と南部地域という物理的な距離を一瞬で克服することができ、実行委員会として参加してくれた高校生や大学生がいわば「オール京都」でつながることができた。また、オンラインツールの活用により頻繁なコミュニケーションも可能となった。また、特別分科会当日についても、本事業に関心を持つ全国の参加者とコミュニケーションすることができた。これは、これまでの5年間にはない新たな収穫と言えよう。

それが証拠に、特別分科会当日のアンケート（外部評価）を見ても、71.4%の参加者が「満足」、28.6%の参加者が「やや満足」ということで、良い評価をいただいた。また、定性的にも「学生の飾りのない言葉を多く聞くことができた」「興味ある内容で、私自身について今後のキャリアアップにつながるものでした」「生徒・学生の成長のあり方が興味深かった」「高校生、大学生の可能性、底力を実感した」とのコメントが寄せられている。

他方、課題としては、①（オンライン事業全体の課題ではあるが）申し込みいただいた人数の半数程度の参加者しか集まらなかったこと、②参加者の多くとのやりとりがチャット中心となり、顔の見えるコミュニケーションが取れなかったこと、③実行委員会の残りの学生・生徒たちの声を届けられなかったこと、などが挙げられる。これらの点については今後の課題としたい。

スライド1

高大連携教育フォーラム
特別分科会②
（高大社連携キャリア教育）

2020年12月6日
 zoom（オンライン）

スライド2

2日目 12月6日(日) 13:00～15:00

第4分科会【探 究】 定員 50名(備後定員 20名) 学習者自らの問いづくりによる探究学習のデザインと実践 報告者 西山 周平氏 (西山企業代表) 報告者 平野貴美枝氏 (FF ENGLISH 代表/NOEL人材バンク代表/英語講師) コーディネーター 佐藤 賢一氏 (京畿大学特別講師/POE/JAL/ANAの翻訳家)	特別分科会①【アドミッション専門人材開発】 定員 80名(備後定員 30名) 第4回 アドミッション・スペシャリスト能力開発研修会(京都会場) 講 師 立脇 洋介氏 (九州大学アドミッションセンター准教授) 講 師 梶野 美彦氏 (徳島大学高等教育研究センターアドミッション部門教員) コーディネーター 山本以和子氏 (京都工芸繊維大学工学科学部教授)	特別分科会②【高大社連携キャリア教育】 定員 50名(備後定員 20名) 高大社連携フューチャーセッション成果報告～実行委員会方式となり何が変わったか～ 報告者 2020年度高大社連携フューチャーセッション実行委員 コーディネーター 鮫島 輝美氏 (京都光華女子大学健康科学部准教授) コーディネーター 杉岡 秀紀氏 (福知山公立大学地域経営学部准教授)
---	--	---

スライド3

コーディネーター紹介

スライド4

コーディネーター
 鮫島 輝美 氏(京都光華女子大学 健康科学部 准教授)
 杉岡 秀紀 氏(福知山公立大学 地域経営学部 准教授)

スライド5

パネラー紹介

スライド6

フューチャーセッションとは？

スライド7

新たな価値を創造するため、
多様な価値観を持つ人々が集
まり、対等な立場で未来志向
で議論し、交流を深める場

スライド8

未来の自分と出会う一日

高大連携 フューチャーセッション in 福知山公立大学

日時 2017年3月19日(日) 10:30~18:00 (受付開始 10:00)
会場 福知山公立大学 にじみ会堂
※参加費無料・交通費自己負担
対象 高校生・大学生 (定員各15名、京都府下の高校・大学に遠方学生は1名)
※参加費無料・交通費自己負担

主なプログラム
① 自己紹介と自己紹介カード作り
② 様々な学びや仕事について聞いてみる
③ 自分自身の夢や志について語り合う
④ 自己紹介カード作り
⑤ 交流会

申し込み方法
お申し込み先
お申し込み先

ゲストスピーカー紹介
◆ 工藤 直樹 (KUPU 元) さん
◆ 藤田 直樹 (KUPU 元) さん
◆ 藤田 直樹 (KUPU 元) さん
◆ 藤田 直樹 (KUPU 元) さん

総合コーディネーター紹介
◆ 藤田 直樹 (KUPU 元) さん
◆ 藤田 直樹 (KUPU 元) さん

高大連携フューチャーセッション in 福知山公立大学参加申込書

申込方法 3月6日(水)までに、以下のいずれかの方法で、大学コンソーシアム京都事務局までお申し込みください。

1. この申込書をFAXで 075-353-9101 に送る
2. この申込書をメールで koda@consortium.or.jp に送る

個人情報
氏名
性別
学年
連絡先
Eメール

学校情報
学校名
〒番号
住所
学年
学年

ご親善委員名
氏名
〒番号
住所
学年
学年

スライド9

高大連携フューチャーセッション

地域づくりは誰のためか？ 何のためか？ ～マルチセクターから考える～

日時 2018年2月24日(土) 11:00~16:30 (受付開始10:30)
会場 福知山市 市民交流プラザ 市民交流スペース
〒900-0044 福知山市南東区南東1-1-1 福知山市民センター
対象 京都府内の高校・大学に通う高校生・大学生 (定員各30名)
※参加費無料・交通費自己負担
プログラム
11:00~ 開会挨拶、アイスブレイク
12:00~ 昼休憩 (お弁当) を準備いたします
13:00~ ロールモデルトーク
14:30~ ワークショップ
16:00~ 振り返り・まとめ
16:30 終了

講師
山本 隆典氏 (京都市与野野町 町長)
森田 賢氏 (京都市福知山市役所)
内川 弘一氏 (KDS京都府立総合職業訓練センター)
川人 紗かり氏 (合同会社ミラマール代表社員)

総合コーディネーター
杉岡 秀紀氏 (福知山公立大学准教授)

高大連携フューチャーセッション 参加申込書
2月9日(金)までに、以下のいずれかの方法で、
大学コンソーシアム京都事務局までお申し込みください。

1. この申込書をFAXで 075-353-9101 に送る
2. この申込書をメールで koda@consortium.or.jp に送る

個人情報
氏名
性別
学年
連絡先
Eメール

学校情報
学校名
〒番号
住所
学年
学年

ご親善委員名
氏名
〒番号
住所
学年
学年

申し込み先
お申し込み先

【主催：京都府高大連携研究協議会 共催：福知山公立大学】

スライド10

高校生・大学生・社会人 高大連携フューチャーセッション

働く学ぶを どう繋げるか？ 一人間しかできない 価値とは何かを考える

日時 2018年11月3日(土) 11:00~16:30 (受付開始10:30)
会場 京都府立総合職業訓練センター 市民交流スペース
〒900-0044 福知山市南東区南東1-1-1 福知山市民センター
対象 高校生・大学生 25名 定員 25名
11:00 開会挨拶、アイスブレイク
11:45~ 昼休憩 (お弁当) を準備いたします
12:00~ ロールモデルトーク
14:15~ ワークショップ
15:45~ 振り返り・まとめ

講師
藤田 直樹氏 (KUPU 元) さん
藤田 直樹氏 (KUPU 元) さん
藤田 直樹氏 (KUPU 元) さん
藤田 直樹氏 (KUPU 元) さん

総合コーディネーター
杉岡 秀紀氏 (福知山公立大学准教授)

高大連携フューチャーセッション 参加申込書
10月15日(日)までに、以下のいずれかの方法で、
大学コンソーシアム京都事務局までお申し込みください。

1. この申込書をFAXで 075-353-9101 に送る
2. この申込書をメールで koda@consortium.or.jp に送る

個人情報
氏名
性別
学年
連絡先
Eメール

学校情報
学校名
〒番号
住所
学年
学年

ご親善委員名
氏名
〒番号
住所
学年
学年

申し込み先
お申し込み先

【主催：京都府高大連携研究協議会 共催：福知山公立大学】

スライド11

9月22日(日) 11:00~16:30 (受付開始10:30)
9月29日(日) 11:00~16:30 (受付開始10:30)

これからの社会で必要とされる仕事とは?

2018年度高大連携フューチャーセッション

京都市内会場
京都市北郷会場

12月7日(土) 12:30~17:30 (受付開始12:00)

申し込み先
お申し込み先

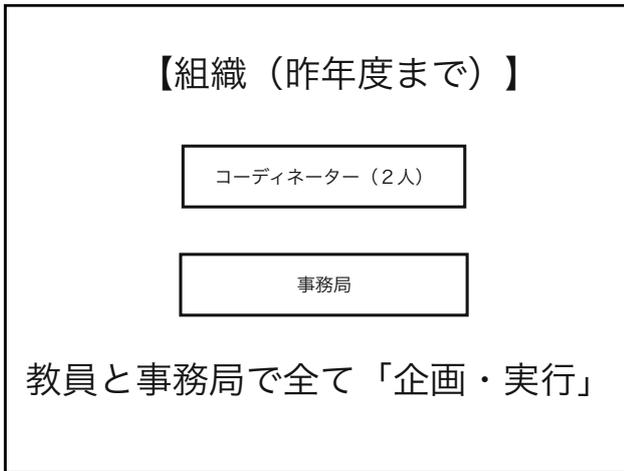
【主催：京都府高大連携研究協議会 共催：福知山公立大学】

スライド12

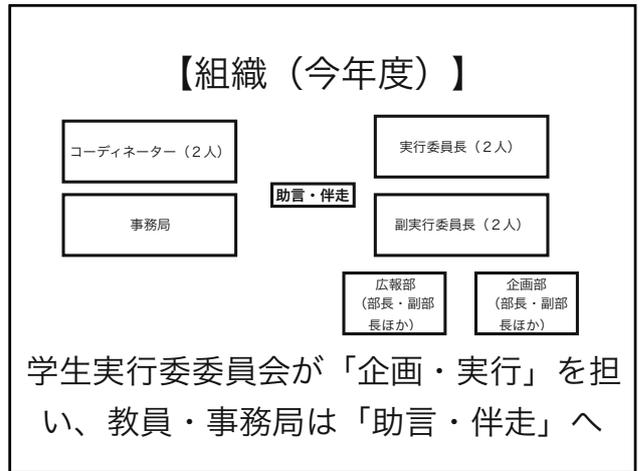
【2020年度概要】

「高大連携フューチャーセッション」とは、
高校生・大学生・社会人といった世代、学校間を超えて交流する高大連携キャリア教育企画である。
2020年、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として
教育の現場では休校措置やオンライン授業の導入が進められ、企業でもテレワークの導入など
ライフスタイルの転換が求められてきた。
このコロナ禍により先の見えない社会において、今後の教育や社会はどう変化していくのだろうか。
また、その変化に対して高校生・大学生は「学ぶ」と「働く」をどう新しくデザインできるのだろうか。
様々な可能性がある中で、これからの世代を担っていく高校生・大学生が、
世代や学校間を超えた交流を通して、未来を見据えた柔軟な発想で自ら思考し、
これからの「学ぶ」と「働く」のライフデザインを新たに組み立てていく。
この2020年度「高大連携フューチャーセッション」の開催に向けて、
主体となって当日のテーマやプログラム構成などを企画検討し、当日の運営補助や
イベント後の実施成果報告(12月予定)まで担う実行委員を募集します！
当日だけでなく、企画する側から関わってもらうことで、
先が見えない世の中を「自分ごと」として考えるきっかけにしたい

スライド 19



スライド 20



スライド 21

【当日参加校】

鳥羽高校・大江高校・加悦谷高校・日星高校・同志社高校・京都学園高校・京都橘高校、京都工芸繊維大学・京都光華女子大学・京都女子大学・同志社大学・福知山公立大学・立命館大学・BBT大学

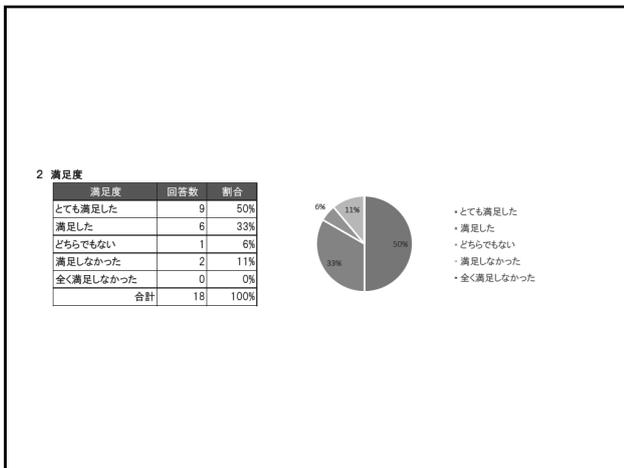
↓

7高校7大学、37名が参加

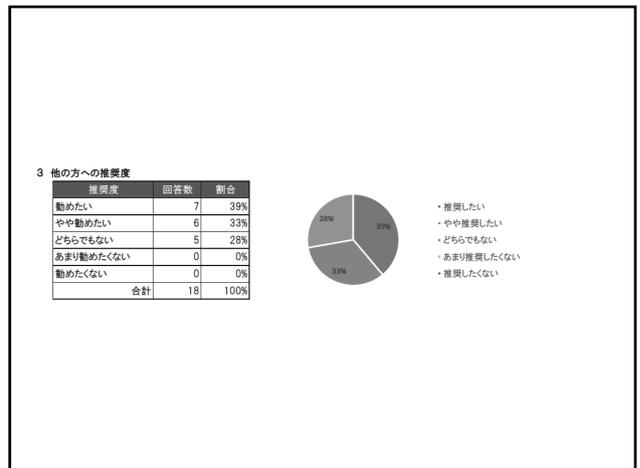
スライド 22

アンケート結果

スライド 23



スライド 24



スライド 25

- 4 満足度理由
- (1)「満足」
- 緊要する機会があまりなかったです。【高校3年】
 - 自分にはない面白い話を聞くことができたから。【大学2年】
 - 実行委員をさせていただいて、さまざまな方のお話を聞き、終わった後の達成感がとても大きかったです。【大学2年】
 - 価値観の違いと同時に多様性の良さを知ることが出来ました。【大学2年】
 - 初めて知ることや新しいことを沢山知ることが出来ました。【大学3年】
 - 学校、年齢が違ってもたくさん交流できました。意見交換も出来ました。こういった一つ一つの経験が大事だと思いますし、オンラインでも対面でも可能なのだと分かりました。【大学3年】
 - 講義やグループワークを通してたくさんの意見交換ができた。普段聞かない方と関わることで良かった。【大学4年】
- (2)「やや満足」
- 自分の知らない話があったため。【高校1年】
 - 企画構成を一通り、それも非学生内で練って形にしていって経験は中々できるものではないと思うため、且つ満足したオンラインについては理由が、唯一、自分発信での提案が殆どできなかったことへの悔いです。【高校1年】
 - 高校生や他大生と話せたから、身近な高校の方とも話せたので良かった。【大学3年】
 - ゲストの方を含め、色々な方とお話ができた、意見交換ができたので良かったです。【大学4年】
- (3)「満足しなかった」
- 自分では思いつかない考えに触れることができた。【大学4年】
 - もっと話す時間があればよかったです。【大学4年】

スライド 26

- 5 ゲストのお話やグループワークを通して、あなたにとって「withコロナ時代における新しいライブデザイン」について、どのようにイメージできましたか、具体的に記入ください。
- リアルとオンラインの利点を混ぜたものになっていくのかなと思いました。【高校1年】
 - グループ内で話し合っている中で「近いうちはもう校舎のある学校に通うことがなくなっていくのではないかな」という意見があり、それについては、各学校や企業等のオンライン導入の速さを見てみるとなかなか遅い未来ではないのかもしれない。【高校1年】
 - オンラインとリアルの良い点を最大限に生かすことができるようになることです。例えば、看護関係の学科の学生はコロナ禍で実習が思うようにできないオンラインで説明を見たり聞いたりするだけでは効果がないと思うので、そういうものリアルにするべきだと思います。ただよく考えたら医療用のロボットなども作られ始めているので、もししたらその仕事もなくなるかもしれません。ちょっと話がそれてしまってもいいんですけど、結局作業が可能なロボットがたくさん開発されていたらリアルで実習をする必要がある職業はなくなってしまい、現時点ではロボットにはできないといわれている「思考力」や「想像力」が必要な職業だけを人間が担うことになるのではないかと感じます。そうなら完全なオンライン化でも大丈夫だと思います。古代の人は足踏車(身の回りのことや身体を動かす)を、自分自身は学問(数学や哲学など)や斬新な道具の発明を行いました。彼らは考えることに時間を費やすことができました。そのようにして人類は今まで発展してきました。Society5.0では私たちは全員が考えることに時間をほとんどを費やすのかもしれませんが。【高校2年】
 - 変わったのは確かだけどいずれそうな未来だっただけでそれが早くないってイメージ。【高校3年】
 - オンラインで関わることのメリットもすごく感じたいけど、対面での交流の良さを忘れられない。【大学2年】
 - オンラインとリアルの良いところ取りができるというところ。オンラインを用いることによって、働く場所や時間の融通が利かたため、これでもよれ学ぶ時間をふやせるのではないかなというところ。【大学2年】
 - オンラインが普及しても人との繋がりは大事にするべき。つながりが希薄になってはいけない。逆に、オンラインだけでも友達はずれる。【大学2年】

スライド 27

- 私は、オンライン化がコロナによって進んだのが早かったのだと思っています。本来なら準備をやり出して、導入も効果的にできたのではないかと考えています。ですが、コロナによって色々な部分で導入されていってしまっています。私たちがまだだオンラインについて勉強しがいかなければなりません。そういった取り組みをされている方々を参考にし、また、オンラインでないことの良さも取り入れながら学んでいって、そういったライフスタイルがこれから開発、確立していくのだと思います。【大学3年】
- 高校でもBBT大学のような大学が沢山現れ、キャンパスのある大学が珍しくなるかもしれない。教育がどんどんコンパウト化され、黒板ノートがないことが当たり前になるかもしれない。【大学3年】
- オンラインは、1つの手段であるということに改めて認識した。オンラインが普通になりつつある今、手段という見方は出来なくなっており、何をやるにもオンラインを含めて考えよう。しかし、私は、やはりリアルが好きなので、リアルであるためには、どうすればいいのかという観点で常に持ち寄り組んでいきたいと思。【大学3年】
- 「学ぶ」も「働く」もコロナだけでなく、色々なことに影響されるが、絶対に継続していく方法はあると思った。今だからこその新しいライブデザインが必要なのではなく、移り変わる時代変化の中で、変わりに続ける生き方が良いと思った。【高校3年】
- 在宅勤務できる職業もあれば、どうしても通勤しなければならない職業(医療職や飲食業等)もあるため、難しい問題だと感じた。【大学4年】
- コロナが終わった後もオンライン化は進んでいくと思った。【大学4年】
- IT化が一步前進した。【大学4年】

スライド 28

- 6 参加して得た気づきや学びを具体的に記入ください。
- オンライン大学では、リアルと形式が全然違って、学べることも違うのかなと思いました。すごく興味を持ってました。【高校1年】
 - 長谷川氏のお話にあったソサエティ5.0にしてもBBT大学そのものにしても、コロナ感染の事態があったから早まっただけであってオンラインやその仕組みが当たり前になる時代が来ることは予想されていて私たちが知らなかっただけなのだとお三方の意識の高さを感じました。【高校1年】
 - 長谷川さんとはとても理想的な、自由な、好きなことを形にされてる方なんだなと思う反面、最初就職した会社を退職されてからの、2年間はたくさん悩まれたんだなあと、何と云うか、大変だったんだらうなと思いました。すごいと思ったのは、コロナ禍でそれまでできていたことができない中でできることを探し、また、学校の先生にzoomの使い方を教えてその先生の方の中を押したということ。意識を変えたということだと思います。なかなか確信が持てなかった(なかなか参加の方をそだててほしい)がAIやIoT、そしてオンライン化の台頭(コロナは関係ない)というものです。「コロナの所為」ではなく「コロナのおかげ」とか、ある意味逆転の発想ですね。僕に僕に「コロナの所為」で学校行事や授業に支障がでたが、「コロナのおかげ」でこのフューチャーセッションに参加して貴重な経験をさせていただくことができました。改めて大切だと感じたことは「待つ」のではなく「動く」ということです。BBT大学は100%オンラインというのを知っていただけでも、驚かされることばかりでした。レポートや事業計画書の提出が多量で！それだけでも十分、自分の頭で考えて作り出さないとけないのにそれに加えてディスカッションもあるとか、嫌でもコミュニケーション能力とかももてるスキルがきますよね。まずそれがすごいと思います。あと、自分の時間を自由に使える(進捗管理も自分でできる)場所の有難さも大学にできるというのは、よく考えたらとても魅力的なものだなと思いました。入試がどんなに進んでくると時間が惜しくなるんですね。BBT大学の学長さんの「自分の人生の社長になれ」という言葉はとても心に響くものだと思います。【高校2年】
 - コロナによるオンライン化が肯定的に受け入れられなかったというのが当たり前なのに意外だと感じました。【高校3年】
 - 空いたことや好きなことは、いろいろなことに挑戦した中から見つかるという言葉を心に動かされました。失敗を恐れず挑戦していきたいと思いました。【高校3年】
 - 「コロナだから出来ない」ではなく「コロナでも出来る」を念頭に置いて行動していくことの大事さ。【大学2年】

スライド 29

- 実行委員の経験やゲストのお話を通して、今回失敗してもいいんだということが分かりました。ゲストの方のように、もっと進んで、自分のやりたいことをやっていこうと思いました。【大学2年】
- 大切なことややらなければならないことはしっかりやって遊び心を忘れないようにしていきたいです。【大学3年】
- 一人ひとりが違う環境で過ごしている中で、意見や考え方も一人ひとり違いました。そういった方々とお話できて自分の視野が広がりました。また、BBT大学さんのように全面オンラインだけでもしっかり勉強できるし、自分のやりたいこともできるんだと、大学の在り方が変わってくると、自分が思うようなライフスタイルが実現しやすくなるのかなと思いました。【大学3年】
- フューチャーセッションという名前がため難しく感じ、参加を迷っていましたが、本当に参加して良かったです。当たり前が当たり前ではないのかも知れない、違うから挑戦してみようという山の上に立つことができました。【大学3年】
- オンラインの大学では、考えを共有する時に、文字に起こして話し合おうという文化が、文字に起こして伝えようとするところから、伝える力が求められるかと思。オンラインだから友達が出来ないというは無く、工夫次第で仲間を作ることが出来るか感じた。オンラインとリアルとのバランスが大事だと思った。【大学3年】
- 講義された方たちにはやりたいうことや夢がたまたまあってすごいと感じた。【大学4年】
- 経済や働き方の変化はあまり考えたことがないが良い機会になった。【大学4年】

スライド 30

- 7 その他、感想や要望(次回取り上げてほしい「テーマ」や「ゲスト」の希望、改善してほしい点)
- 閉会後も残ってくださった大学生の方に、次回はゲストとして、いろいろ話してもらいたいです。彼自身話すのは苦手だと仰っていました。グループでお話しされているのを聞いていた私個人としては自分の意見に加えて前回の意見に交えたコメントをうま(纏めている建非方などない)印象でした。故、場の流れ云々ではなく彼に話せばいいかとゲストとしてご参加頂きたいと思いました。【高校1年】
 - いい緊張ができて、楽しかったです。【高校3年】
 - プレリアクセッションで話すのが難しかったです。実行委員として、ファシリテーターのパートナーももう少しうまく伝えられればよかったと思いました。【高校3年】
 - あえて「コロナ」を介して考えてみたい。あえて、コロナのことは考えない議論がしたい。【大学3年】
 - 「働く」は「仕事に就く」とは【大学3年】
 - 学校のICT活用についてのセッションがあれば参加したいです。【大学3年】
 - 自分にとってとても良い学びになりました。参加して良かったです。【大学4年】

スライド 31

長谷川 夕起 様(京都府立加悦谷高等学校・宮津天橋高等学校加悦谷学舎 高校魅力化コーディネーター)

長時間お疲れさまでした。
大学生、高校生という若さでこういう場に参加したり実行委員として参加して企画するというのは、私が皆さんの年では考えられなかったことで、きっかけや動機がなんであれ、その行動力は本当に素晴らしいと思います。
それだけでもすごい事なの。参加していただいた皆さんのことを受け取っているその感性も本当に素晴らしいと感じました。

「コロナのせい」、ではなく、「コロナのおかげ」という言葉で共感できたのは、皆さんが今置かれている環境が多少の不安はあっても、比較的安定しているから守られているかやではないでしょうか。講演では来るべきことが早まっただけ、とお伝えはしましたが、確実にこのコロナ禍で辛い思いをされた方もおられます。当たり前のことが当たり前ではないということに気づかれた方もおられますが、今皆さんの置かれている環境は決して当たり前ではない、奇跡の上に成り立っている事にもぜひ気づいていただければと思います。

また、society5.0は「創造社会」と呼ばれる社会です。【自分が実現したい世界】をテクノロジーの力を使って実現させていく時代に突入していきます。講演での気づきで、「オンラインとオフラインのいいとこ取りがされていく」などの意見がりましたが、オンラインとオフラインのそれぞれの良さを改めて認識されたと思います。自分が実現したい世界は何を活用したらより早く実現できるのか、そんな視点でリアルとオンラインの活用を引き続き皆さんの中で問い続け考え続けてもらえたらと思います。

時代が変わっても、変わらないものも沢山あります。その本質を見極めてぜひ皆さん成長していかってください。
良く学び、よく遊びましょう！

スライド 32

坂下 朋紀 氏(ビジネス・ブレイクスルー大学グローバル経営学科4年)

みなさんは、「オンライン学習」と聞いてもなかなかイメージができなかったと思います。講演では、「オンライン大学での、ディスカッションはどのような方法をするのか」「友達はどのようにつくえるのか」「オンライン大学の学びは？」など、純粋に疑問に思ったことをご質問いただき、オンライン大学を学ぶの人の知られていない活況している私たちにとても学びが多かったです。
みなさんからたくさんのご質問をいただいたのは、とても嬉しかったです。

講演でも少しお話をしましたが、私たちの大学は「答え」を探すのではなく、自分の「答え」を見つけるところを大切にしています。セッション当日のディスカッションでは、みなさん自分の「答え」を見つけてくださることで、見聞きしていただきながら感じていました。

必ずしも答えがある訳ではないこの時代、今後もその「考える」ことを大切にしていってください。

コロナ時代で、生活も大きく変わってきた中、ビジネス・ブレイクスルー大学も将来の選択肢として覚えていただければと思います。
たくさんの方に、オンライン学習のことを知っていただく、とても貴重な時間でした。ありがとうございました！

スライド 33

東崎 莉菜 氏(ビジネス・ブレイクスルー大学グローバル経営学科4年)

まずは、実行委員の学生の皆様へ、半年間という月日をかけて作り上げてきた貴重な機会に関わるご縁を頂き、ありがとうございます。事前打ち合わせから、場の雰囲気や皆様の団結力が画面越しからひしひしと伝わり、安心して当日を迎えることが出来ました。

今年のセッションテーマは「考えてみませんか？with コロナ時代における新しいライフデザイン」。
コロナ禍の前と後でどのように生活が変わり、またこれからどう自身の生活をグリエントしていけるのか、について本当に多くの議論がなされました。学生生活や社会において、オンライン体制を取り入れることが良いのか悪いのか、という単純な議論ではなく、活かせる場面を柔軟に考え、どんな可能性を広げていく皆様の意欲的な姿勢に感心しました。

また、初めまして同士の方が多く、年齢・環境の垣根を越えて和気あいあいと議論する姿もとても魅力的でした。ここに参加しなければ出会う事のなかったご縁がたさんですよね。
いつか「あの時一緒に議論したのがいいね。俺らが想像していた社会が今現実として起こったな！！」と語り合える関係が築かれる起点になっていければ更に嬉しいです。

ゲストとして、皆さんに何か少しでも今後の選択肢が広がればいいな、という思いで参加しましたが、正重、私自身が更に人生をより大きな視点で見ることが出来た機会となりました。

このセッションを作り上げてくださった皆様のパワーに感謝するとともに、今後の生活がより豊かで楽しい日々になることを願っております。「自分の人生の社長になれ！！」
ありがとうございました。

スライド 34

【コーディネーター気づき】

①リアルに会えないもどかしさやコミュニケーションの難しさもあったが、時間や物理的距離の限界を超え、いつでもどこでも繋がれるというオンラインならではのメリットが出て、学校種・学年・年齢・出身地域を超えた出会いの場、ネットワークを構築することができた。

②実行委員会内外で「学ぶ」と「働く」についての多様な価値観に触れ、実行委員である学生生徒たちの発言が日に日に前向きかつ主体的なものに変わっていった。

③企画から実行までをほぼ全て学生・生徒たちで行うことで、主体性や企画力、実行力、責任感、タイムマネジメントなどのソーシャルスキルを身につけてもらえた。

スライド 35

パネルディスカッション

スライド 36

Q1.学生実行委員をやってみて身についた力はどんな力？

スライド 37

- (実行委員長/日星高等学校1年)
- ・人の上に立つ難しさ、タイムマネジメントと学業とのバランスの難しさ。
 - ・物事の視点が変わった。

スライド 38

- (副実行委員長/福知山公立大学2年)
- ・人を信頼する力。
 - ・オンラインのみのコミュニケーション。

スライド 39

- (広報部長/京都工芸繊維大学2年)
- ・オンラインでプロジェクトを進める力。
 - ・予定通りでいかない現実と調整のむずかしさ。

スライド 40

- (企画副部長/加悦谷高等学校3年)
- ・どんな環境でも話す(せる)力。やはり関係性構築が大事だった。
 - ・コミュニケーションの結果、自信がついた。関係性もできた。

スライド 41

- (鮫島先生コメント)
- ・高校生、大学生ならではの感想、地域性ならではの感想だった。
 - ・オンラインならではの良さもあったが、雑談の重要性などリアルの良さも取り入れられた。
 - ・良い雰囲気オンラインでも作れたのでは。

スライド 42

Q2.企画から実行までやってみてぶつかった壁とは？
またそれをどう乗り越えた？

スライド 43

(企画副部長/加悦谷高等学校3年)

- ・人数が少なかったのと、スケジュールが合わず、困った。
- ・初対面で仲良くなるのに時間がかかった。

↓

オープンチャットや雑談を活用した。

スライド 44

(実行委員長/日星高等学校1年)

- ・関係性構築が難しかった。
- ・メンバー間で仲間割れ。

↓

プラスアルファの自己紹介
今後の課題や解決策について
話し合った。

スライド 45

(広報部長/京都工芸繊維大学2年)

せっかく作り、みなで決めたロゴが使えなかった。

↓

チラシやバーチャル背景に
生かした。

スライド 46

(副実行委員長/福知山公立大学2年)

- ・記者会見をしたが、記事にならなかった。
- ・大学生と高校生の時間が合わなかった。

↓

個人とのやりとりを大切にした。

スライド 47

(参加者より)

「競い合うのではなく、1つのアイデアをもとに作り上げていくこと」は大切なことですね。ビジネスの世界でもリーダーシップとともにフォロアシップの大切さが言われています。以下お時間があるときに見てみてください。<https://www.youtube.com/watch?v=ldULdrNAINs&t=90s>

スライド 48

(参加者より)

武岡さんが言ってくれた「本題と違うことも話す大切さ」非常に共感しました。ビジネスでも仕事が行き詰った際に、雑談することで、今まで気づかなかったアイデアが出る可能性があります。

スライド 49

(鮫島先生コメント)

- ・失敗しても良いと言った。
- ・個と集団共に「あれ？」を大事にしてくれたと思う。
- ・トライ&リカバリー（≠エラー）がしっかりできていた。
- ・バーチャル背景による一体感もオンラインならであった。

スライド 50

Q3.自分の中の「学び」と「働き」
についての考え方はどう変化した？

スライド 51

(参加者)

Q.このあと触れていただけるかもしれませんが、本事業を通して「学び」「働き」の軸で、未来的な情報や多様性（世代や地域）に触れたことによって感じたことや気づいたことを伺えると嬉しいです。

スライド 52

(副実行委員長/福知山公立大学2年)

- ・大人の人と喋る機会がある。
- ・「学び」と「働き」は繋がっていると思う。
- ・もっと吸収（インプット）したい。
- ・起業家からも色々な気づきがあった。

スライド 53

(実行委員長/日星高等学校1年)

- ・オンラインならではの学びと働きを知れた。
- ・人間性、気配り、思いやり。

スライド 54

(広報部長/京都工芸繊維大学2年)

- ・ Society5.0はコロナ前から進んでいた。コロナの「お陰」で進んだだけ。
- ・やりたいことをやるだけ。
- ・自分で動いていないだけということを痛感した。

スライド 55

(企画副部長/加悦谷高等学校3年)

- ・これまで学びと働きは別々だった。
- ・これからは個人がやりたいことが尊重される時代になると思う。
- ・学びたくとも学べない人もいる中で、オンラインの強みを実感できた。

スライド 56

(鮫島先生コメント)

- ・一人一人が見つけはじめている。
- ・無駄はない。
- ・キャリアは偶然から。

スライド 57

(参加者)

「学び」と「働き」はいわば表のステージでライフには「暮らす」があると思います。今後は「働く」「学ぶ」「暮らす」をつなげることはこのフォーラムでは探求していかないのでしょうか。

スライド 58

(参加者)

- ・「どこに」暮らすかだけでなく、「誰と」暮らすかも大切かと思います。「暮らす」も住むだけでなく、「つながる」=交流人口も大事かなと思います。

スライド 59

Q4.今後どこで暮らしたい？

スライド 60

(企画副部長/加悦谷高等学校3年)

- ・都会生まれ。
- ・田舎暮らし。



二個目の家も大事にしたい。

スライド 61

(実行委員長/日星高等学校1年)

- ・ 都会に出たい。
- ・ 大学でまちから出る。
- ・ 将来、海外には出たい。

スライド 62

(副実行委員長/福知山公立大学2年)

- ・ 京丹後に戻る。
- ・ 自分で自由にしたい。
- ・ 高校生の頃から魅力的な大人とつながってきた。
- ・ 失敗しても大事な環境が大事。

スライド 63

(広報部長/京都工芸繊維大学2年)

- ・ 「せとうち芸術祭」がある香川出身。
- ・ だから、美術が強い大学に入った。
- ・ 将来は地元に戻りたい。

スライド 64

(鮫島先生コメント)

- ・ 両親は企業戦士だった。
- ・ 自分には「田舎」がない。
- ・ 京都の「土着愛」に驚いた。
- ・ 「過疎」ではなく「適疎」。
- ・ ローカルに生きるけど、ローカルにしばられない。

スライド 65

(参加者)

Q. 高大連携教育という視点で伺いたいのですが、高校生と大学生の協働プロジェクトということで、高校生は大学生と一緒にすすめること大学生は高校生と一緒に進めることで、感じたことや気づいたことを教えていただけると嬉しいです。

スライド 66

(広報部長/京都工芸繊維大学2年)

- ・ 高校生の方がやや壁を感じていたと感じた。

スライド 67

(副実行委員長/福知山公立大学2年)

- ・高校生は忙しい(学校に縛られた忙しさ)。
- ・疑問を疑問と覚えることが大事。

スライド 68

(実行委員長/日星高等学校1年)

- ・最初は大学生と高校生間で文章や語彙力やレベルが違っていると驚いた。
- ・こんな大学生になりたい。

スライド 69

(企画副部長/加悦谷高等学校3年)

- ・大学生と能力の差を感じた。
- ・こんな大学生になりたいと思えるようになった。

スライド 70

まとめ

スライド 71

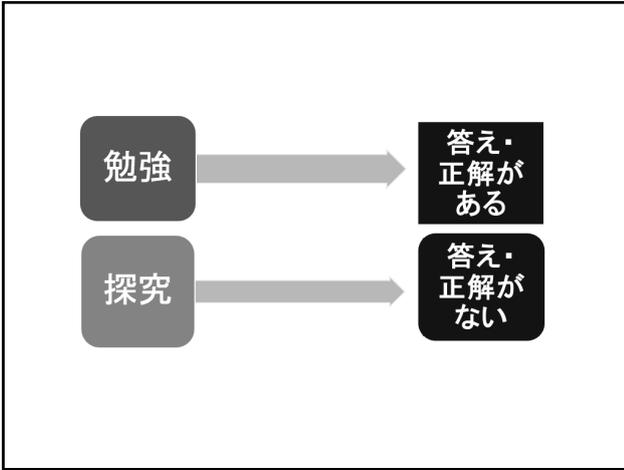


(出所) 上田紀行編『新・大学で何を学ぶか?』岩波新書、2020

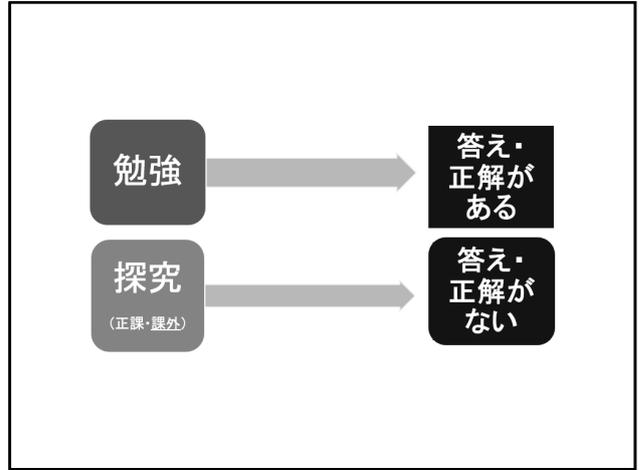
スライド 72

- ・大学の学びは高校の学びとは少し違います。
- ・高校までの学びが「勉強」であるとすれば、大学で加わるのは「探究」です。
- ・「勉強」は(中略)出された問題が解けるようにすること。その問題には「正解」があり、その正解を答えればいい点数が取れます。
- ・ところが「探究」は違います。たとえば生きるとはいかなるものかとか、死とはいかなるものかと言った、(中略)これだけが正しいという答えも結論もありません。
- ・そのことを探究することによって、私たちの人生は深まり、豊かになっていきます。

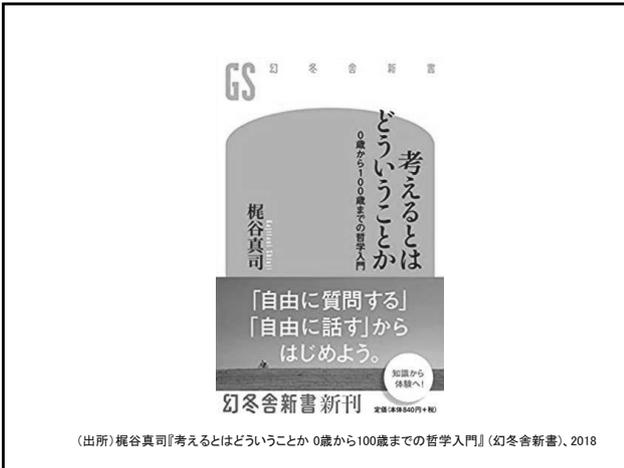
スライド 73



スライド 74



スライド 75



スライド 76

